

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4110212638		
法人名	医療法人 森本病院		
事業所名	医療法人 森本病院 グループホーム かもめ		
所在地	佐賀県唐津市坊主町445番地5号		
自己評価作成日	平成21年7月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年11月27日	外部評価確定日	平成22年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

唐津市中心より少し離れた場所で、学校や庁舎が連立した場所にある。病院との併設にて車道より奥まった場所にあり、静かであるが子供の通学時の声も聞こえる場所にある。ホームの庭には花壇や畑があり、四季折々の花や野菜を収穫することができる。利用者は併設病院からの入居者であり、病気に対してはすぐに対応が出来る。ホームの雰囲気はのんびりと穏やかである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

唐津市中心街から近く、近くには役所や学校・事業所が多く建つ。病院の敷地内にあり、車道から少し奥まった静かな環境のなか、城下町の名残の石垣に隣接して建つホームである。経営母体が病院で「地域に根ざした医療と介護」を目指した医療連携体制ができており、入居者や家族の安心につながっている。玄関を入ると入居者手作りの季節感あるポスターや花が迎えてくれるなど、季節感を大切にしたケアが提供されている。職員は入居者と笑顔で接することを大切にし、「毎日皆さんが1度でも多く笑顔でいられる様に」と、入居者が楽しく有意義に過ごせるような支援を心掛けている。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度までホームで楽しく。	毎日笑顔で楽しく暮らすことを支えるという事業所理念を作り上げている。ケアプランに理念を加えて毎日確認するなど、職員は日々の業務を通して理念の実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、地域の人達をホームへ招いたり、近所の人達を気軽に挨拶を交わし日常的に交流している。	地域を意識し、買物は近くの店舗を利用している。ホームの夏祭りや餅つきに地元住民を招待したり、地区の運動会に参加するなど地元と交流する事を心掛けている。	自治会に入会するなど直接の係わりを持ち、回覧板なども回ってくる様な更なる関係作りを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの講義をスタッフ、入居者の家族、運営推進会議メンバーと受けたり、管理者は地域に出かけキャラバンメイトの講義に出かけています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、随時サービスのあり方、評価への取り組みについて、逐一報告、話し合ってサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は駐在員や民生委員、行政職員、老人会役員、入居者家族などの参加で2ヶ月に1回開催されている。ホームの活動や行事計画を報告し、参加者からは質問・意見・要望を受けるなど活発な意見交換の場となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とは、運営推進会議における議題など相談し、認定係など来て頂き家族の質問、不満など意見交換など行い協力関係を築いている。	市の担当者が家族会に参加し、介護認定や認定更新に対する疑問質問に答えるなど、市の担当者と事業所は協力関係が築かれている。管理者は、市の担当者や地域包括支援センター職員と何でも相談できる関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どこまでが身体拘束なのかなど、常に話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関や居室は施錠されていない。入居者は自由に行動でき、職員は見守りながら支援している。職員は身体拘束に関する研修会に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。声の大きさや言葉掛けに注意するなど、精神的・言葉による苦痛のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修にもスタッフが参加し、一緒に勉強会を行って防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の後見人制度を利用するにあたり、いろいろな支援事業所を利用することにより活用し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議においては、いつも要望、意見を聞いている。訪問介護相談員を受け入れ外部へ表せる機会を設け運営に反映させている。	重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、家族に説明している。運営推進会議後に家族会を開催し、家族の意見の把握に努めている。家族からの要望で介護認定調査の勉強会を開催するなど、意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に月一回のミーティングにおいて、スタッフが中心となり運営に関する意見や提案を重点に運営に反映させている。	管理者は常に職員の要望や意見を聞くように心掛けている。職員は日々のケアの中で入居者の変化や異常を敏感に感じ取るよう心がけ、ミーティングノートに記録して申し送りに活用し、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回本人の仕事に対する目標を立ててもらい、その実行力を見て向上心が持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の勉強会をスタッフが率先して行ったり、外部研修を受けた時はスタッフと協働し力量を把握してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームの勉強会への参加を予定しているが、まだ参加していない同じグループホームでは相互訪問などの活動を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問し本人が不安な事など尋ねたり、家族又は病院の看護師からの情報により、安心して頂けるための関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式を利用し、家族が困っている事、不安な事などよく話を聞き要望に答え相談しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のオリエンテーションによる話し合いで、今一番望まれている支援を見極め介護計画に取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常における昔からの風習や季節季節の行事の言われなど聞き取り入れたり、料理作りのアドバイスなど暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	二ヶ月に一回の現在の状況をお手紙にてお知らせし、面会の依頼、本人にとって一番大切な家族。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、家族などいつでも気楽に面会に来られたり、お手紙を出したりホーム内の公衆電話を利用している。面会時間も制限していない。	管理者は入居者や家族と話す事を心がけ、本人の生活歴や人間関係・社会との関係の把握に努めている。友人との電話を楽しんだり、化粧品屋など馴染みの知人・友人が訪ねて来る入居者が多く、職員は入居者の人間関係を把握して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、季節の行事、誕生会、畑の収穫など皆さんで参加、同じ事が無理な人はその人に合った作業でお互い助け合って生活して頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約後の本人の状況を把握するためにも、退居者を尋ねたり、家族のお話を聞き相談を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で、本人の生活の様子で何か変わったことがあれば、直接本人と話し合い本人の意向にむけ検討している。	職員は日々の生活を通して入居者と会話することを心掛けており、普段の何気ない会話の中から意向を汲み取る努力をしている。希望や意思を伝えることが困難な入居者には本人の様子や態度から察したり、家族の面会時に情報を得る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居された後、本人より生活歴や生活環境など詳しく尋ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケース記録により現状を知る事が出来るが、一日の過ごし方に異変があった場合は、ミーティングノートへ記入し必ずスタッフが出勤時読みサインしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	評価、モニタリングはスタッフ(居室担当者)が行い、計画作成者がアセスメントをとった時点で話し合い現状に即した介護計画を作成している。	入居者や家族から要望を聞いた上で主治医の意見を聞き、職員や管理者・関係者が話し合って具体的な介護計画が立てられている。職員は日々のケアの中で入居者の変化や異常を感じ取るように心がけ、介護計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常にケアプランをチェックし実践することで、結果や気づきを話し合いケースに記録しながら見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	二ヶ月に一回の家族へのお便りで日常生活の様子をお知らせしたり、夏祭りにおいては近所の子供達を招待、又認知症の勉強会など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	後見人制度の利用を行うための相談や、知人からの化粧品購入など本人が望まれるように暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院に受診し、他の病院の受診が必要な場合は、家族や本人の意見により適切な医療を受けられるように支援している。	入居者や家族の意向を大切にし、入居前のかかりつけ医の継続受診を支援している。通院などの送迎は本人や家族の要望に沿って支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の病院へすぐ相談を行うと共に、職場内の看護職員のアドバイスを受けながら適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、お見舞いに行ったり、医師や看護師との情報交換を行っている。関係づくりも良好です。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族や本人の意見を大切に相談しながら支援に取り組んでいる。	事業所としては終末期の対応をしていない。重度化した場合や終末期のあり方については契約時に話し合いが行われ、運営推進会議でも説明している。入居者の状態に合わせて話し合いを持つ体制ができており、家族と職員・主治医は方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は、マニュアルがありそれを各スタッフ熟読する。訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は、年二回避難方法を身に付けるように訓練しているが、水害時の訓練はまだ行っていない。	消防署の協力を得て年2回、入居者が参加した避難訓練が実施されているが、地域住民への参加要請はしていない。災害に備え、食料や飲料水をリュックに詰めて常備している。	昼夜を通じた様々な発生時間を想定し、地域の人々の参加や協力を得ての避難訓練の実施も期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の話されることに対しては、否定せず受容に心がけているが、精神的な病気の人に対しては本人が混乱されないような言葉かけや対応を行っている。	職員は日頃から理念を念頭におき、入居者の尊厳を大切にした対応がなされている。誇りやプライバシーを損ねることのない様、言葉かけや口調にも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望することがあれば否定せず、本人の思い通りの日常を送って頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内で生活するうえでのルール(例えば食事前のうがいや手洗い)皆さんが楽しく生活できる範囲以外は本人の自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の希望される衣服を着て頂いたり、化粧や髪型などその人らしい身だしなみを行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握し利用者とスタッフの協働により食事、後片付けを行っている。	食事の下ごしらえから調理・盛り付け・配膳・後片付けなど入居者ができることは職員が見守りながら支援している。入居者と職員は同じテーブルで会話をしながら食事している。入居時に嗜好を聞き取り、楽しい食事となる参考にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立や一日の水分量の把握し食事の量など習慣に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三食の食事後必ず歯みがきをして頂き、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しおむつの使用を減らす努力をしている。	排泄チェックシートがあり、入居者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに便秘を予防できるような献立を準備したり、便秘時には個々に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	スタッフの入浴に係わる時間帯には、限りはあるがその時間帯の中で本人の希望にそった入浴を楽しんでもらっている。	入浴希望がある場合は深夜帯を除きいつでも入浴が可能である。基本的には一人で入浴されるが、仲の良い友人と一緒に入る方もおられ、ゆっくり入浴を楽しめる支援がなされている。入浴を拒まれる入居者には無理強いせず、職員・友人からの声掛けや時間を変えて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や生活習慣は自由ですが、昼夜逆転・精神不安のある方には、その時の状況によって起きて頂き楽しめるような支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用法、副作用については処方箋にて全スタッフが把握、服薬後の変化がある場合は、必ず併設の病院担当医へ報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や力を活かし、ホームの飾り、畑の仕事、食事準備など気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を待ちながら、墓参り、銀行、自宅へ行って頂いたり、地域の行事への参加のため出かけられる。	買物や散歩、花壇や菜園の見回りなど入居者が希望されれば職員はできる限り支援している。花見や行事参加、弁当持参の散歩やドライブなどの外出支援も行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が望まれる買い物は一緒に行ったりと、本人の希望や力に応じてお金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を自由に使用してもらったり、手紙も自由にやりとりされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室、玄関周囲には季節の花や野菜を植えたり、夏はよしずで日光を遮断し、冬場は日光をとり入れ居心地よく過ごして頂いている。	共用の空間には季節の花や手芸品・カレンダーが飾られて季節感を感じる雰囲気作りがなされている。ソファや椅子が置かれ、思い思いに居心地良く過ごせるような居場所が作られている。心地よい音量の音楽を流し、よしずやカーテンで光の調節をするなど入居者にとって不快な音や光・臭気などがないように五感刺激への配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファ、庭のベンチなど気の合った利用者同士で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具を置くことで不安を増長させる人以外は、使い慣れたものや仏壇など持って来て頂いて使い慣れたものなど居心地よく過ごせる工夫をしている。	居室は広く希望の品の持込みが可能である。管理者は家族や本人に自宅で使用していた物品の持込を勧めている。自分で描かれた油絵や位牌、写真、手芸品などが飾られ、その人らしい居室作りが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かした環境づくりを行って、安全で自立した生活が送れるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）

※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない